

# 教師ノート

日付	2014年 5月25日
単元	モーセ・1
テーマ	神は御力をもって助けてくださる
タイトル	海を裂く道
テキスト	出エジプト13:17-15:21
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 出エジプト14:22
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	<a href="#">小下3題1課1</a> 、 <a href="#">小下3題1課2</a> 、 <a href="#">幼2題1課4</a> 、 <a href="#">小上1題1課11</a>
□導入	モーセとイスラエルの民は、エジプトから解放されて、とっても喜んだでしょう。でも、またしても大ピンチがおとずれます。神さまはどうやって、イスラエルの民を助けてくださるのでしょうか？
□ポイント1 神さまはイスラエルの民を導かれました(13:17-14:4)	イスラエルの民は、エジプトを出て、カナンに向けて進みました。男の人だけで60万、その家族と家畜を含めての大移動が始まります。彼らは、エジプトで生まれ育った人たちですが、神がアブラハムに与えられた約束の地カナンのはざめは知っていました。カナンへの近道はありましたが、神は、彼らを葦の海(=紅海)に沿った荒野の道に導かれました。なぜなら、ペリシテを通る近道の方には、エジプトの国境警備隊が置かれていたからです。神は、イスラエルの民が、この強そうな警備隊をみて、弱気になるのを避けようと言われました。イスラエルの民の心が折れて、エジプト脱出をあきらめてしまわないように、別の道へ回らせたのです。彼らは編隊を組んで、エジプトから離れていきました。また彼らはヨセフの遺体も運びました。 神は、昼は雲の柱の中に、夜は火の柱の中にいて、彼らの前を進まれました。昼も夜も彼らの道を照らし進ませるためでした。昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れることはありませんでした。神は、イスラエル人に、引き返して海辺に宿営するように言われました。そのころパロは、イスラエルの民を出国させたことを、後悔しはじめていました。神は、パロの兵隊が追いかけてこようとしているのをご存知でした。それなのに、イスラエルの民を海辺で宿営させたのです。彼らは追い詰められてしまいました。さて、神はどんな計画をもっておられるのでしょうか。神はモーセに「わたしは、パロとその全軍勢を通してわたしは栄光を現わし、エジプトはわたしが主であることを知るようになる。」と言われました。
☞ 荒野: 草や木があまり育たない、岩と砂の土地です。恐ろしい動物もいたでしょう。人が住みたいと思わないような、寂しく、恐い土地です。「荒野の道」といっても整備された道があったわけではありません。	
□ポイント2 イスラエルの民はエジプトの兵に追い込まれました(14:5-14)	パロはやはり、イスラエル人をこのまま去らせてしまうのが惜しくなりました。そこで、とびきり強い戦車を600台と、エジプトの全部の戦車を率いて、イスラエル人を追跡しました。イスラエル人は海辺に追い詰められそうになって、非常に恐れました。初めは神に叫びましたが、次第にモーセに文句を言うようになりました。「おいモーセ！ いったい何ということをしてくれたんだ！ こんな荒野で死ぬくらいなら、エジプトで働く方がまだましだったじゃないか！」 モーセのおかげでエジプトを出たときは喜んでいたはずなのに、自分に都合が悪くなると、すぐにモーセを責め始めたのです。しかしモーセは「恐れることはありません。静まって、神が行なわれる救いを待ち望みましょう。主があなたがたのために戦ってくださるので、心配しないで神にゆだねましょう！」 彼は神を信頼していたのです。

### □ポイント3 神さまは、イスラエルの民をエジプトの手から救われました(14:15-31)

前方には紅海、後方には恐ろしいエジプトの大軍が迫って来ています。もちろん海に橋や船はありません。飛び込んで死んでしまうだけです。いよいよ絶体絶命のピンチです。その時、神はモーセに「民を前進させなさい」と言われました。すると、民の前を進んでいた雲の柱が、彼らの後ろに回りました。そして、エジプトの陣営とイスラエルの陣営との間に入り、エジプト軍の前に闇をつくりました。彼らは一晩中、その真っ暗な雲にさえぎられて、イスラエルの民に近づくことができませんでした。その時、モーセが、神のことばに従って、杖を海の上に差し出しました。すると神は、一晩中、強い東風を吹かせました。そしてナント！海の水を分けて、乾いた陸地を歩けるようにしてくださったのです！！イスラエルの民は、驚きと同時に感謝して、神をほめたたえたでしょう。彼らは海の真中のかわいた地を、歩いて進むことができたのです。海の水は、まるで壁のように、彼らの右と左で積み上がったまま、とどまっています。しかし、まだピンチは続きます。パロの戦車と騎兵隊が、海の中の道を、追いかけて来たのです。神は戦車の車輪をはずして、進めないようにし、エジプトの陣営をかき乱してくださいました。それを見て、エジプト人は「まずい、逃げよう！神が彼らのために、戦っておられるのだから勝ち目がない。」と言いました。そのうち、イスラエルの民は、全員向こう岸にたどり着き、岸に上がりました。すると神がモーセに「あなたの手を海の上に差し伸べ、水がエジプト人と、その戦車、その騎兵の上に返るようにせよ」と言われました。モーセがそのようにすると、海がもとの状態に戻りました。エジプト人は水が迫って来るので逃げましたが、主はエジプト人を海の真中に投げ込みました。水はもとに戻り、あとを追って海にはいったパロの全軍勢の戦車と騎兵をおおいました。全員が溺れ死んで、誰ひとり生き残ることができませんでした。このようにして、主がイスラエルの民をエジプト軍の手から救い出されたのです。イスラエルは海辺に死んでいるエジプト人を見ました。イスラエルの民は、主がエジプトに行なわれたこの大なる御力を見たので、主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じました。

### □結論 神さまはイスラエルの民を導き、エジプトから救い出してくださいました

暗唱聖句を読み上げます

### □適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

雲の柱・火の柱で導いてくださる神さまについて進んでいこう。いつも聖書を読み、聖霊さまの導きを求める生活をしよう。神さまは、暗闇の中でもあなたの道を照らし、進むべき道を教えてくださいます。

イスラエルの民は、神さまに導かれてエジプトを出たのに、紅海の手前で最大のピンチを迎えました。みなさんは、神さまの導きに従って、返ってピンチに追い込まれたことがありますか？（仲のいいお友だちを教会に誘って嫌われた・いじめられているお友だちを助けて自分がいじめられたなど）そんなとき、「こんなことなら、神さまに従うんじゃなかった」と文句を言ってしまうかもしれません。でも、あなたが神さまの導きについて行っている限り、神さまがあなたのために敵と戦ってくださいます。勇気をもって前に進みましょう。ピンチのとき、慌てるのではなく、祈って神さまの助けを待ちましょう。また追い込まれたとき、心配したり、恐れて引き下がるのではなく、1歩踏み出しましょう。そのとき海が裂けて道ができるような、神さまの助けを体験することができるのです。もともと神さまは、全ての障害を取り除いて、彼らを安全にカナンに到着させることができたはずで、では、どうして彼らをわざわざ海辺まで引き帰させて、海を裂いて道を渡らせたのでしょうか？それは、彼らに神さまに頼ることを教えるためです。そしてミラクルを見せるためです。神さまを信頼すれば、神さまが素晴らしいことをしてくださいます。ピンチになったとき、自分の力ではなく、神さまの力に頼ろう。神さまにはなんでもできるのです。みなさんの生活の中にも、こんなミラクルが起こります。聖書に書いてあることをそのまま信じて、大胆に進んでいきましょう。